

平成25年（2013）12月 入域観光客数概況

12月の観光客数は、51万5,500人
対前年（H24）同月比 +5万2,100人、+11.2%
～暦年で過去最高の観光客数を記録～

入域状況

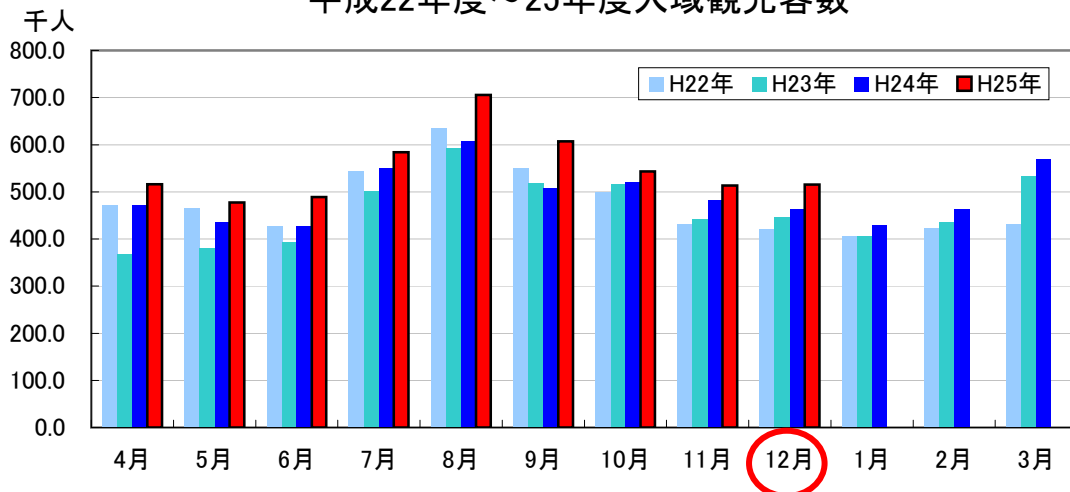
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	479,300 人	446,300 人	+ 33,000人	+ 7.4%	93.0%
外国客	36,200 人	17,100 人	+ 19,100人	+ 111.7%	7.0%
合計	515,500 人	463,400 人	+ 52,100人	+ 11.2%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	479,300 人	446,300 人	+ 33,000人	+ 7.4%	93.5%
外国客	33,500 人	16,400 人	+ 17,100人	+ 104.3%	6.5%
合計	512,800 人	462,700 人	+ 50,100人	+ 10.8%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、民間企業の賞与増に加え、年末年始の日並びの良さから沖縄への旅行需要も伸び、個人旅行者を中心に好調に推移した。

1月以降、しばらくは消費増税前の大型家電・家具等の駆け込み需要増により旅行手控えは懸念されるものの、現時点では旅行会社及び航空会社の予約状況は前年並みとみられる。

外国客 入域状況

12月は、冬期の旅行シーズンを迎えた韓国を中心に、重点市場からは安定した入込があり、前年を大きく上回った。

1月以降、引き続き旅行シーズンのピークを迎える韓国に加え、春節を迎える台湾、中国、香港からの入込も増加し、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	244,100 人	223,700 人	+ 20,400人	+ 9.1%	50.9%
関西方面	88,100 人	77,200 人	+ 10,900人	+ 14.1%	18.4%
福岡方面	58,100 人	59,100 人	△ 1,000人	△ 1.7%	12.1%
名古屋	38,500 人	36,900 人	+ 1,600人	+ 4.3%	8.0%
その他	50,500 人	49,400 人	+ 1,100人	+ 2.2%	10.5%
合計	479,300 人	446,300 人	+ 33,000人	+ 7.4%	100.0%

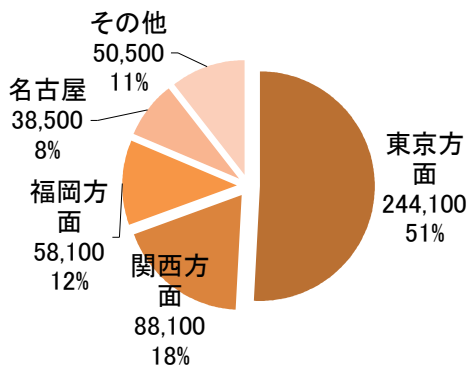
※国内海路客 3,600人を含む(東京:500人、鹿児島:2,300人、その他:800人)

外国客 国籍別入域状況

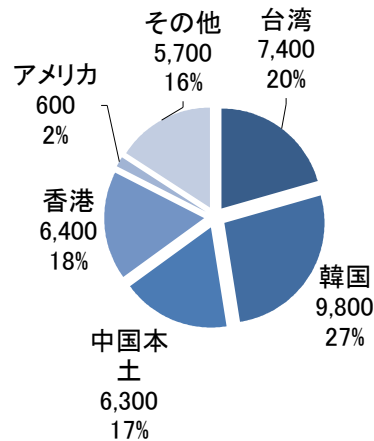
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	7,400 人	7,400 人	5,100 人	+ 2,300人	+45.1%	20.4%
韓国	9,800 人	9,800 人	5,500 人	+ 4,300人	+78.2%	27.1%
中国本土	5,800 人	6,300 人	800 人	+ 5,500人	+687.5%	17.4%
香港	6,400 人	6,400 人	3,000 人	+ 3,400人	+113.3%	17.7%
アメリカ	600 人	600 人	400 人	+ 200人	+50.0%	1.7%
その他	3,500 人	5,700 人	2,300 人	+ 3,400人	+147.8%	15.7%
合計	33,500 人	36,200 人	17,100 人	+ 19,100人	+111.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	7,400 人	7,400 人	+45.1%	24.4%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	9,700 人	9,700 人	+94.0%	32.0%	100 人	100 人	△80.0%	1.7%
中国本土	2,600 人	2,600 人	+225.0%	8.6%	3,200 人	3,700 人	皆増	62.7%
香港	6,400 人	6,400 人	+113.3%	21.1%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	600 人	600 人	+50.0%	2.0%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	3,500 人	3,600 人	+111.8%	11.9%	0 人	2,100 人	+250.0%	35.6%
合計	30,200 人	30,300 人	+89.4%	100.0%	3,300 人	5,900 人	+436.4%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、羽田-石垣路線の増便、バニラ・エアの成田路線就航(再開)により、中旬以降入込が増加し、好調に推移した。

1月は、3連休以降、一部航空会社の予約状況が前年を下回っており、沖縄旅行の需要は鈍化傾向にあるが、北部の桜祭りや旅行会社の独自イベントの誘客効果を期待したい。

大阪

12月は、中旬まで前年並みで推移したものの、年末年始に集中して入込があり、結果として好調に推移した。

1月は、低価格の旅行商品販売が好調なこともあり、前年以上の入込が期待できる。

福岡

12月は、前年同月に比べ機材小型化により提供座席が減ったものの、中旬以降に前年以上の入込があり、個人旅行客を中心に好調に推移した。

1月以降、ほとんどの旅行社で団体旅行を中心に販売状況が鈍化しており、各社とも対策を講じている。

名古屋

12月は、年末年始を直前に控えた中旬以外で入込状況がよく、家族旅行を中心に好調に推移した。

1月は、現時点で前年並みの入込とみられるが、北部の桜祭りや2月のプロ野球キャンプ、ホエールウォッチングに関心が高まっており、今後を期待。

台湾

12月は、夏場の入込状況との差が例年以上に開いているものの、航空路線拡充の影響が続いており、前年を上回った。

1月は、団体旅行は少なく、個人旅行客が中心となる。春節には各地(台北・高雄・台中)からチャーター便が就航するため、前年以上の入込が期待できる。

韓国

12月は、前年と比較してチャーター便が増加し、ゴルフ旅行及び家族旅行客を中心に好調に推移した。

1月から2月にかけて冬の旅行シーズンがピークを迎え、定期路線の提供座席増やチャーター便増を予定していることから、前年以上に推移する見込み。

中国本土・北京

12月は、先月同様、前年不調の反動により大幅に増加した。

1月以降、春節時期のチャーター便計画は中止になったものの、春節は例年旅行需要が高いことから、好調に推移していく見込み。

中国本土・上海

12月は、上海発クルーズ船(コスタ・アトランティカ)が2度寄港し、大幅な増加となった。

1月以降も上海発のクルーズ船寄港が予定されており、クルーズ客を中心とした団体観光が増加する見込み。1月31日の吉祥航空の上海-那覇路線就航も、今後の入込増へ向け期待できる。

香港

12月のオフシーズンでも、入込の落ち込みは例年より小幅となっており、好調に推移した。タイの政情不安により、旅行先をタイから日本へ変更するケースも見られる。

1月は、航空会社及び旅行会社が低価格商品で需要を喚起しており、安定して推移する見込み。